平成 28 年度道徳教育実践研究授業実績報告書

１　研究指定校の概要

指定校名	徳島市上八万中学校（とくしましかみはちまん）
校長氏名	山口　麻里
所在地	〒 779 － 3131　徳島市下町本丁１３１番地
電話番号	088 － 644 － 0050
ＵＲＬ	http://e-school.e-tokushima.or.jp/tokushima/jh/kamihachiman/html/htdocs/

２　研究課題

（１）研究主題

「自他を大切にし，共によりよい生き方を求め行動する生徒の育成」

～豊かな体験活動や実践活動を通して～

（２）設定理由

本校は豊かな自然に囲まれた徳島市西部の学校である。春にはウグイスのさえずりが聞こえるような豊かな自然環境に囲まれ,生徒達は明るく元気に学校生活を送っている。

本校の生徒は素直で，清掃活動や係活動にも真面目に取り組み，学校生活や部活動，学校行事なども，自分の責任を自覚し，友達と協力しながら前向きに取り組んでいる。しかし，中には素直に自分を表現できずに，友人関係で悩みを抱えている生徒もいる。５月に実施した道徳アンケートでは，自己肯定感や自己有用感がやや低いという結果が出ている。

道徳科の目標（中学校）では「道徳教育の目標に基づき，よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため，道徳的諸価値についての理解を基に，自己を見つめ，物事を広い視野から多面的・多角的に考え，人間としての生き方についての考えを深める学習を通して，道徳的判断力，心情，実践意欲と態度を育てる。」と明記されている。

本校は各学年２クラス 60 人程度の学校規模であり，多様な価値観に触れる機会は少ないように思われる。そのため，道徳の時間は，資料を通して様々な生き方に触れ，よりよい生き方を模索していく大切な時間である。様々な体験活動を道徳の授業と組み合わせることにより，そこで学ぶ道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚がさらに深まり，道徳的実践力の効果的な育成につなげていきたいと考え，本主題を設定した。

３　研究の概要及び特色

（概要）

（１）道徳教育の全体計画の見直しと推進体制の確立

（２）体験活動・実践活動の充実

（３）道徳授業の改善・充実

（４）道徳に関するアンケートの実施

（特色）

（１）体験活動や実践活動を充実させ，それを生かした道徳の授業を行うことで，自分の生き方について深く考えさせる。

（２）指導力を向上させるために全職員で研究に取り組み，授業改善につなげる。

・学期に１回の研究授業と授業研究会

・指導者を招いた授業力向上のための講義や模擬授業への参加

（３）道徳アンケート（５月，１月）を実施し，生徒の実態を把握し,その結果を授業に反映させる。

（４）「振り返りシート」を活用し，学習評価につなげる。

４　研究の内容と成果

（１）道徳教育の全体計画の見直し

各教科，総合的な学習の時間，特別活動との関連を踏まえて全体計画の見直しを行う。

※　体験活動や実践活動と関連した道徳の内容項目

月	学　校　行　事	道　徳　の　内　容　項　目
４月	「敬和」の授業	A-(3)向上心・個性の伸長
５月	校外学習	C-(16)郷土の伝統と文化の尊重，郷土を愛する態度
６月	体育祭 携帯電話安全教室	B-(8)友情･信頼 C-(15)よりよい学校生活，集団生活の充実 C-(10)遵法精神･公徳心
７月	人権意見発表会	C-(11)公正･公平，社会正義
９月	文化祭	B-(8)　C-(15)
10 月	遠足 薬物乱用教室	D-(20)自然愛護 A-(2)節度･節制
11 月	保育実習 人権ｵｰﾌﾟﾝｽｸｰﾙ	C-(14)家族愛･家庭生活の充実 C-(11)公正･公平，社会正義
12 月	修学旅行	D-(19)生命の尊さ D-(20)自然愛護
１月	防災訓練	C-(12)社会参画，公共の精神
３月	卒業式	B-(6)　思いやり･感謝

（２）道徳教育の重点目標の設定と指導内容の重点化

○上八万中学校のめざす生徒像

①主体的に行動する生徒
②思いやりのある生徒
③自らに誇りを持つ生徒

○本校の職員から見た生徒の実態に基づいた重点的に指導したい内容項目

①自己を見つめ，自己の向上を図るとともに個性を伸ばして充実した生き方を追求すること。	A-(3)向上心・個性の伸長
②正義と公正さを重んじ，誰に対しても公平に接し差別や偏見のない社会の実現に努めること。	C-(11)公正･公平，社会正義
③自分の考えや意見を相手に伝えるとともに，それぞれの個性や立場を尊重し，いろいろなものの見方や考え方があることを理解し，寛容の心をもって謙虚に他に学び，自らを高めていくこと。	B-(9)相互理解・寛容

○学年の重点目標

１年

①自分や友達のよいところを知り，思いやりの気持ちをもってともに伸びようとする態度を育てる。 ②自主的に考えて行動し，その結果に責任をもつ態度を育てる。	B-(9)相互理解・寛容 C-(15)よりよい学校生活 集団生活の充実

２年

①お互いの個性を認め，支え合う仲間をつくる。 ②生徒が自ら主役となって活躍する場を設け，やる気を育てる。	A-(3)向上心・個性の伸長 C-(15)よりよい学校生活 集団生活の充実

３年

①多様な文化や価値観，個性を尊重し，いろいろなものの見方や考え方があることを理解する。 ②誰もが共に暮らせる社会の実現を目指して，よりよい社会を創造しようとする態度を養う。	B-(9)相互理解・寛容 C-(12)社会参画，公共の精神

全学年で取り組む重点目標（本校のめざす生徒像や職員の思いを考えて）

①正義と公正さを重んじ，誰に対しても公平に接し，差別や偏見のない社会の実現に努める。	C-(11)公正・公平，社会正義

（３）道徳教推進体制の確立

各学年の道徳教育推進担当教師との連携体制を強化し，毎月１回の道徳教育推進委員会で学年の道徳授業の取組や，生徒の道徳的実践力の向上に関わるような事例の情報交換などを行った。また，道徳教育推進教師が，県のパワーアップ研究協議会で学んだことについて情報伝達を行った。

（４）体験活動や実践活動を生かした道徳の授業の取組

①いじめを許さない心を育てるために

ア校訓「敬和」

人は誰しもかけがえのない存在であり，他の誰をもってしても代えられない。また人は，互いに支え合って力を合わせて生きている。自分を大切にするとともに，まわりの人を大切にしなければならない。一人一人が，人間性を豊かに伸ばし，互いを敬い，基本的人権が尊重された豊かな社会を築いていこう。

年度初めに各担任は「敬和」の授業を行う。本校の「敬和」には，上記のような思いが込められている。

各担任による
「敬和」の授業

○道徳の授業

主題名：「かけがえのない存在」　A-(3)　向上心･個性の伸長

資料名：「ひび割れ壺」

内　容：「人は誰しもかけがえのない存在である」ということを，資料を通して子どもたちに深く考えさせた。その後，校訓「敬和」に込められた思いを学校生活の中でどのように実践していくか，それぞれの思いを交流させた。

【成　果】担任の願いが込められた資料で考えさせた後で，自分たちの学校生活でどのように校訓である「敬和」の精神を実践していくか考えさせることによって，学級目標や具体的な実践活動へと結びついた。

イその他の活動

人権意見発表会

人権オープンスクール　等

人権意見発表会

人権オープンスクール

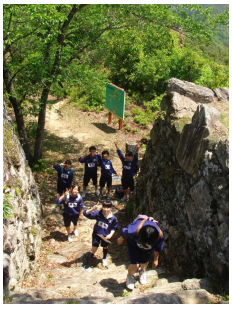
②地域との連携を強化するために

ア地域学習

上八万校区は，土器の出土が多く城跡や重要文化財になっている神社など由緒ある史跡が多くある。「わたしたちのふるさと」をテーマに，自分たちが暮らす地区の歴史を学び，自分の住む町のよさを知り，自尊感情を高める目的で，地域学習を毎年５月に実施している。

１年校外学習

２年校外学習



３年校外学習

○道徳の授業

主題名：「郷土への誇り」　C-(16)　郷土の伝統と文化の尊重，郷土を愛する態度

資料名：「鳥居龍蔵」

小学校道徳学習教材　子どもたちに伝えたい郷土（徳島）の偉人

「カラチンの星」－鳥居龍蔵博士ときみ子夫人－　県版　私たちの道徳

内　容：自分たちが暮らす地域を知る学習を通して，地域に対する誇りや関心を高めた後で，郷土の偉人である「鳥居龍蔵博士」を取りあげた。鳥居博士が不屈の精神で研究に打ち込む生きざまについて考え，意見を交流させた。

【成　果】地域学習後に，郷土の偉人へ広げて考えさせたことで，郷土への誇りや関心が強まり，郷土を愛する態度を育むことができた。

イその他の活動

保育実習　地域防災訓練　町内清掃活動　認知症サポーター養成講座　等

保育実習

地域防災訓練

認知症ｻﾎﾟｰﾀｰ養成講座

③生徒の主体的な活動を支援するために

ア体育祭に向けて

○道徳の授業

主題名：「よりよい学校生活」　C-(15)　よりよい学校生活，集団生活の充実

資料名：「合唱コンクール」　県版　私たちの道徳

内　容：体育祭に向けて生徒が実際に直面しそうな課題を含んだ資料を使って考えさせることで，協力してよりよい学級，学校づくりに努めようとする思いを強くした。

【成　果】体育祭の練習が上手くいかず，失敗した子を責めるような言動が続いた時に「みんなで声を出して気持を合わせていこう。」という発言があった。資料を通して学んだことが自分たちの生活の中で意識づけられていた。

体育祭の様子

イ体育祭後

主題名：「友情と信頼」　B-(8)友情，信頼

資料名：「いつも一緒に」　県版　私たちの道徳

内　容：本資料は「本当の友達とは」「友情を育んでいくために何が大切か」を考えさせる資料である。生徒達は体育祭という大きな行事を通して，クラスのまとまりや絆について，様々なことを感じたり，考えたりしていた。その時撮影した写真を提示しながら，心から信頼できる友達をもつことの大切さを理解し，友情を育んでいこうとする気持ちが高まった。

【成　果】体験活動を通じて生徒が意識したことを，資料を通してさらに深く考えることができた。写真を使ったことで，体育祭を通じて感じ，学んだことに基づいた発言が多くあり，思いを深め，感動や学びを共有することができた。

④生徒の道徳性を養うためのその他の活動

ア交通安全教室　携帯電話安全教室の開催　C-(10)　遵法精神，公徳心

イ生徒会活動　専門員会活動　C-(15)　よりよい学校生活，集団生活の充実

毎朝のあいさつ運動や玄関前の清掃，体育祭・文化祭の企画や運営，花を育てる活動や長期休業中の水やり　等

交通安全教室　**携帯電話安全教室**　**花を育てる活動**

（５）道徳授業の充実・改善

①道徳教育校内研修

・５月２５日（水）教職員の授業力向上（道徳の時間）のための講義
　　指導者　徳島県教育委員会学校教育課　笹田　葉子　指導主事

・６月２９日（水）道徳研究授業（１年Ａ組）　授業者　大木　純子　教諭

指導者　徳島県教育委員会学校教育課　笹田　葉子　指導主事
・９月２０日（火）道徳教育シンポジウム報告　報告者　谷　真紀子　教諭
・９月２３日（金）道徳の授業のつくり方（模擬授業を通して）
指導者　兵庫教育大学教職大学院　永吉　洋子　先生
・１２月８日（木）道徳研究授業（３年Ａ組）授業者　小川　美紀　教諭
・３月　２日（木）道徳研究授業（２年Ａ組）授業者　谷　真紀子　教諭

５月と９月に講師の先生を迎えて，授業力向上を目指した実践的な研修会を実施した。５月は指導主事の笹田先生から様々な道徳の授業の事例を基に，考え議論する道徳科の授業を目指した中心発問の設定，ワークシートの内容の精選，多様な指導方法について教えていただいた。

９月は講師の先生が授業者，本校の先生方が生徒となり模擬授業の形態で研修を実施した。中心発問を考えたり，授業の組み立て方など，授業に生かせる内容で充実した実践的な研修となった。

先生方の感想

・道徳の授業における中心発問の大切さがよく理解できました。指導主事の先生のパワフルな語り口に引き込まれてしまいました。考え議論する魅力的な道徳の授業を目指して教えていただいたことを実践していきたいです。
・とても充実した道徳の授業を受けることができた。中心発問の決め方，発問の仕方等もよく分かりました。私事ですが，自分の祖母のことを思い出して涙が出そうになりました。きっと子どもたちもいろいろな思いを持つことだと思います。これが道徳の時間なんだなと改めて感じる楽しく面白いと思える時間でした。
・心が温かくなりました。そして大変勉強になりました。道徳の授業の組み立て方について理解できたように思います。

○改善・充実のポイント

・構造的な板書
・「考える道徳」を目指した読み物資料の活用
・中心発問を主人公の変化した場面におく
・発問の精選（中心発問１，補助発問２～３）
・全職員による資料分析（多様な見方）
・道徳アンケート（生徒の実態把握）
・振り返りシート（評価）

②道徳に関するアンケートの実施

※「思う，だいたい思う」を合わせた％

質　問　項　目	５月	１月
①「道徳の時間」の勉強はためになると思う	90	95
②「道徳の時間」では，他の人の考えを聞きながら自分のことを考えている	81	90
③「道徳の時間」に自分の考えを周りの人に伝えている	52	56
④自分にはよいところがあると思う	66	67
⑤自分のことが好きである	55	64
⑥将来の夢や目標に向かって努力する人間になりたいと思う	96	100

・アンケートの考察

②と⑥のポイントが上がっていることや，どちらも 90 ％を超えていることで「様々な体験活動と道徳の授業を組み合わせることにより，そこで学ぶ道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚が深まった」ように感じられる。これは，授業者にとっても嬉しい結果であった。ただ，それが，道徳的実践力の育成につながったかどうかは，今後の学校生活を通して，生徒に学んだ道徳的価値を実際の生活の中でどのように実践していくかを，教師からの押しつけではなく自発的に考えさせながら，具体的に行動化していく手立てを考えさせたい。

11	人の気持ちがわかる人間になりたいと思う	
12	いじめはどんな理由があっても，いけないことだと思う	
13	家族や友だち，地域の人の役に立つ人間になりたいと思う	
14	命はかけがえのないものだと思う(自分，他の人，動物，植物)	
15	人として，してはならないことをしない(うそをつかない，人を傷つけない，人のものをとらない)	
16	自分にはよいところがあると思う	

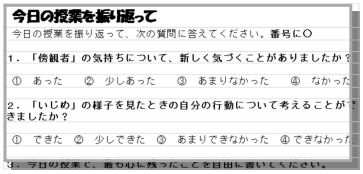
道徳アンケート

また，④⑤については若干ポイントが上がったものの，他の項目に比べて値が低いので，これからの学校生活でさらに自己肯定感や自己有用感を生徒が感じられるような工夫や，道徳の授業を通して，本校の校訓「敬和」にある「人は誰しもかけがえのない存在であり他の誰をもってしても代えられない。」ということについて考えさせたい。

また，道徳教育の目標である「多様な感じ方や考え方に接しながら，新しい見方や考え方を生み出していく」ために，道徳の時間に意見を交流させることはとても重要である。③の値が低いことから，道徳教育を中心に学校全体で言語活動を充実させるような取組をしていきたい。

③「振り返りシート」の活用

生徒が自己評価をできるとともに，教師自身が授業を振り返り，授業改善につなげる指針となっている。振り返りシートを，道徳ファイルに綴じていくことで，生徒自身が自分の心の成長を感じられるものとなっている。


今日の授業を振り返って

今日の授業を振り返って、次の質問に答えてください。番号に○

1．「傍観者」の気持ちについて、新しく気づくことがありましたか？

① あった ② 少しあった ③ あまりなかった ④ なかった

2．「いじめ」の様子を見たときの自分の行動について考えることができましたか？

① できた ② 少しできた ③ あまりできなかった ④できなかった

「振り返りシート」の活用

5　今後の課題

体験活動と道徳の授業を組み合わせることで，計画的，発展的な指導が可能になり，様々な道徳的価値が補充，深化，統合され，価値に基づいた人間としての生き方の自覚が深まり道徳的実践力の育成につながった。資料を通して客観的に意識され学んだ道徳性を今度は自分たちが経験することで，実体験としてより強く意識することができた。

今後の課題としては，体験活動や実践活動を通じて感じ，学んだ様々な道徳的価値を資料を使って道徳の時間にどう焦点化していくかを授業者が意識していくこと，また生徒の変容や実態に基づいた指導や評価が常時行われるようにしていくことが大切だと考える。

本校は各学年２クラスの学校規模で,学年担当の教員の数も４人と少人数ではあるが，今後の取組として複数の教員による道徳の時間の実施（学級担任 TT 型やローテーション TT 型）についても考えていきたい。